（様式第１号別紙１―１）

介護職員養成研修課程カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

科(科目)名	内　　容	実施計画	科目番号
(1)職務の理解 （６時間）	①　多様なサービスの理解	○介護保険サービスについて（居宅、施設） ○介護保険サービス、介護保険外サービスについて	(1)－①
	②介護職の仕事内容や働く現場の理解	○居宅や施設などの各種現場における仕事内容 ○実際のサービス提供現場の具体的イメージ （視聴覚教材の活用、職員の体験談、実習や見学等）	(1)－②
(2)介護における尊厳の保持・自立支援 （９時間）	①人権と尊厳を支える介護	1.人権と尊厳の保持 ○個人として尊重（アドボカシー、エンパワメントの視点）○尊厳のある暮らしと役割の実感　○プライバシーの保護 2.ICF ○ICFについての考え方、介護分野での活用方法 3.QOL ○QOLについての考え方 4.ノーマライゼーション ノーマライゼーションの考え方 5.虐待防止・身体拘束禁止 ○高齢者虐待防止法　○身体拘束　○養護者支援 6.個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法	(2)－①
	②　自立に向けた介護	1.自立支援 ○自立支援とは　○残存能力の活用　○意欲を高める支援　○個別性（個別ケア）○重度化防止 2.介護予防 ○介護予防の考え方と施策	(2)－②
(3)介護の基本 （６時間）	①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.介護環境の特徴と理解 ○訪問介護と施設介護の違い　○地域包括ケアシステムについて 2.介護の専門性について ○介護の目指す基本視点 3.介護にかかわる職種 ○異なる専門性を持つ他職種の理解 （介護支援専門員、サービス提供責任者等） ○専門性を活かした効果的サービスの提供とチームケアにおける役割分担	(3)－①

	②介護職の職業倫理	1.職業倫理 ○介護の倫理 （介護福祉士の倫理、介護福祉士制度等）	(3)－②
	③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.介護における安全の確保 ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術「ハザードとリスク」 2.事故予防、安全対策 ○リスクマネジメント　○事故の分析と要因の探索 ○事故の報告と情報の共有（家族、行政等） 3.感染対策 ○感染症について ○感染予防の基礎知識（感染源、感染経路） ○感染経路別予防	(3)－③
	④介護職の安全	1.介護職の安全と心身の健康管理 ○健康管理と介護の質　○感染症予防・対策 ○ストレスマネジメント　○腰痛予防	(3)－④
（４）介護・福祉サービスの理解と医療との連携 （９時間）	①介護保険制度	1.介護保険制度創設の背景、目的、動向 ○ケアマネジメント ○介護予防重視型システムへの転換 ○地域包括支援センターについて ○地域包括ケアシステムの推進 2.仕組みの基礎的理解 ○基本的仕組み ○介護・介護予防給付について ○要介護認定について 3.制度を支える財源、組織、団体の役割 ○介護保険の財源について ○事業者の指定、指導監査	(4)－①
	②医療との連携とリハビリテーション	1.医療との連携 ○医行為と介護 ○介護職員の医療行為を行うための制度について ○訪問看護 ○施設における看護,介護の役割と連携 ○リハビリテーションについて	(4)－②
	③障害者福祉制度およびその他制度	1.障害者福祉制度の理念 ○障害の概念　○ICF 2.障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ○給付についての申請から支給まで 3.個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法　○成年後見制度 ○日常生活自立支援事業	(4)－③

(5)介護におけるコミュニケーション技術 （６時間）	①介護におけるコミュニケーション	1.介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 〇相手のコミュニケーション能力に対する理解 〇傾聴と共感 2.コミュニケーションの技法 〇バーバル・ノンバーバルコミュニケーション 3.利用者、家族とのコミュニケーション 〇利用者の思いを把握し、共感する 〇家族の心理的理解、信頼関係の形成 〇アセスメント手法とニーズとデマンドの違い 4.利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 〇コミュニケーション技術の基本 〇視力、聴力に応じたコミュニケーション技術 〇失語症に応じたこみぃにケーション技術 〇構音障害に応じたコミュニケーション技術 〇認知症に応じたコミュニケーション技術	(5)－①
	②介護におけるチームのコミュニケーション	1.記録における情報の共有化 〇介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 〇介護に関する記録の種類 〇個別援助計画書 〇介護周辺の記録（ヒヤリハット等）〇5W3H 2.報告 〇報告、連絡、相談の留意点 3.コミュニケーションを促す環境 〇会議（情報共有、役割認識） 〇ケースカンファレンス	(5)－②
(6)老化の理解 （６時間）	①老化に伴うこころとからだの変化と日常	1.老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 〇喪失体験 2.老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 〇咀嚼機能の低下 〇筋骨格系の変化　〇体温維持機能の変化 3.精神機能の変化と日常生活への影響 〇認知機能の低下による日常生活の変化	(6)－①
	②高齢者と健康	1.高齢者の疾病と生活上の留意点 〇骨粗鬆症　〇骨折とその種類 〇筋力の低下と動き、姿勢の変化 2.高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点	(6)－②

		○虚血性心疾患　○誤嚥性肺炎 ○老年期うつ病、うつ病性仮性認知症　○感染症 ○中枢神経疾患（脳卒中等） ○整形疾患について（変形性関節症等）	
(7)認知症の理解 （６時間）	①認知症を取り巻く状況	1.認知症ケアの理念 ○パーソンセンタードケア ○認知症ケアの理念、視点	(7)－①
	②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.認知症の定義と各病態による特徴 ○原因疾患別特徴 ○認知症と似た症状を示す現象や疾患 ○治療や健康管理に関する注意点	(7)－②
	③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ○認知症の中核症状　○BPSDについて ○PPCEPについて　○不適切なケア ○生活環境への工夫 2.認知症の利用者への対応 ○表情や視線などから本人の気持ちを推察する ○プライドを傷つけず、失敗しない状況を作る ○認知症の進行に合わせたケア ○コミュニケーションでの注意点 ○年齢に合わせた対応	(7)－③
	④家族への支援	1.家族支援と介護の受容過程 ○家族支援の視点　○認知症の受容過程での援助 ○介護負担の軽減（レスパイトケア）	(7)－④
(8)障害の理解 （３時間）	①障害の基礎的理解	1.障害の概念とICF ○ICFについて 2.障害者福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの概念	(8)－①
	②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1.身体障害について ○視覚障害　○聴覚障害　○平衡障害 ○音声、言語、咀嚼障害　○肢体不自由 ○内部障害 2.知的障害について 3.精神障害について ○統合失調症　○気分障害　○高次脳機能障害 ○広汎性発達障害　○学習障害　○ADHD	(8)－②
	③家族の心理、かかわり支援の理解	○障害の理解、受容支援、介護負担軽減 ○障害の受容過程	(8)－③

(9)こころとからだのしくみと生活支援技術 （75時間）	【ア　基本知識の学習（10～13 時間）】		
	①介護の基本的な考え方	1.理論に基づく介護と法的根拠に基づく介護 ○リスクマネジメント　○パーソンセンタードケア ○エビデンスベースドケア　○自立支援 ○基本的な介助方法と介助の種類	(9)－①
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	○学習と基礎知識　○感情と意欲の基礎知識 ○こころが行動やからだに与える影響について	(9)－②
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	○骨・関節・筋などのからだに関する基礎知識 ○ボディメカニクス ○中枢神経と末梢神経に関する基礎知識 ○自律神経と内部機関に関する基礎知識	(9)－③
	【イ　生活支援技術の講義・演習（50～55 時間）】		
	④生活と家事	1.家事と生活の理解、生活支援 ○生活歴　○自立支援　○予防的な対応 ○主体性・能動性を引き出す ○多様な生活習慣・価値観	(9)－④
	⑤快適な居住環境整備と介護	1.快適な居住環境に関する留意点と支援方法 ○家庭内に多い事故とその予防　○住宅改修 ○福祉用具貸与の活用	(9)－⑤
	⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	1.整容に関する基礎知識・支援技術 ○整容行動の基本、注意点、工夫 ○対象者に合わせた衣服やその着脱方法の選択 ○整容に関連した福祉用具や自助具の活用	(9)－⑥
	⑦移動･移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	1.移動、移乗に関する基礎知識 ○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法の選択 ○重心,利用者の動き,残存機能を活用した介助方法 ○起居動作に関する介助方法（寝返り、起坐、座位） ○起立、移乗に関する介助方法 （ベッド―車椅子間、車椅子－トイレ間） ○移動介助（車椅子、杖、歩行器等） ○褥瘡とその予防	(9)－⑦
	⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	1.食事に関する基礎知識 ○食事の意義と目的　○低栄養　○脱水 ○咀嚼、嚥下のメカニズム　○食環境 ○食事形態、食事姿勢と食事介助 ○適切な食器、福祉用具の選択 ○誤嚥の予防	(9)－⑧

	⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	1.入浴・清潔保持に関する基礎知識 ○入浴の意義、目的　○体調、身体状況の確認 ○本人のこころに配慮する ○基本的な入浴介助と入浴時の注意点（入槽動作、退槽動作、洗身動作） ○清拭などの身体の清潔介護 ○具体的な清潔保持のための介助方法 ○入浴用具の活用　○目、鼻、耳、爪のケア ○陰部洗浄	(9)－⑨
	⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	1.排泄に関する基礎知識 ○排泄ケアによって生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連（プライド・羞恥心など） ○排泄のメカニズム　○排泄の意味 ○排泄障害が日常生活に及ぼす影響 ○おむつ使用時の弊害　○自立支援 ○便秘に対するケア ○環境設定と福祉用具・自助具などの活用 ○便秘の予防　○排泄介助の具体的な方法 ○一人介助、二人介助、おむつ介助、陰部洗浄	(9)－⑩
	⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	1.睡眠に関する基礎知識 ○睡眠の意義と目的 ○睡眠の目的と効果を高める工夫 ○睡眠障害　○睡眠薬 ○安眠のための介護・環境設定の工夫	(9)－⑪
	⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	1.終末期ケア（ターミナルケア）に関する基礎知識 ○高齢者の死に至る過程 ○ターミナルケアのポイント ○介護従事者の基本的態度 ○多職種間の情報共有の必要性　○エンゼルケア	(9)－⑫
	【ウ　生活支援技術演習（10～12 時間）】		
	○施設実習にて当カリキュラムを代用する 1.介護実習（老人保健施設）－8 時間 　１名の利用者様へ着目し、その方について、評価分析・ニーズ把握→目標設定→設定した目標を達成するうえで必要な事由の列挙→日々のケアに必要となる事項→日々の実施計画の策定→注意点・工夫の一連の流れについての指導を行うことにより、多角的なケアプランがどのように作成され、実行されているかを指導する。その事を通して介護職として必要な視点、考え方を習得し、QOL、介護、自立支援、パーソンセンタードケアについて実践的に学ぶ。 　また、介護現場において実習指導責任者の指導のもと、施設利用者様に対して研修		

	内で習得した技術内の介護を行い、それに対するフィードバックや注意喚起、現場での実践方法について指導を行うことにより、具体的、かつ実践的な研修とする。 2.在宅サービス提供現場見学（通所リハビリテーション、通所介護）－6 時間 　在宅サービスを実習指導責任者の指導のもと、在宅サービス提供の PDCA サイクルに基づいたサービス提供の場面を見学していただく。さらに、ケアプランの作成、その注意点やケアプランに沿ったサービス提供について指導していただき、在宅介護現場に必要な知識や技術について、理解を深めることにより在宅サービスの重要性を認識していただく。加えて、利用者様との交流を図ることにより、学習したコミュニケーションスキルを活かし、学習内容を現場で実践する場とし、それに関する注意や指導を行うことにより、具体的かつ実践的な研修とする。 ※コロナウイルス感染の影響などにより施設実習が不可能となった場合には、下記に示したカリキュラムで代用する。		
	⑬介護過程の基礎的理解	1.介護課程の基礎知識 〇介護課程の目的・意義・展開 〇介護課程とチームアプローチ	(9)－⑬
	⑭総合生活支援技術演習	1.総合生活支援技術について 〇介護に携わるにあたり必要な視点や分析を行い、どのように行えば生活がその人らしく豊かになるか、さらには QOL が向上するかを利用者の心身の状況に合わせた介護が行えるかを想定する事を目的とする 〇事例を提示→評価分析・ニーズ把握→目標設定→設定した目標を達成するうえで必要な事の列挙→日々必要となる事項→日々の実施計画の策定→注意点・工夫の列挙 上記のサイクルでグループワーク等を用い、参加者同士で意見を共有する 演習により、考え方を身に着けるだけでなく、各々のコミュニケーション技術の向上も目的とする 〇事例に関しては、「認知症」、「脳卒中片麻痺」を使用するが、参加者の希望に応じて変更することも可能とする	(9)－⑭

(10)振り返り （４時間）	①振り返り	1.研修のまとめ 〇研修内容の振り返り 〇今後継続して学ぶべきこと 〇根拠に基づく科学的な介護	(10)－①
	②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1.継続的な研修について 〇勉強・学習・研修の意味　〇現場での研修・研鑽 〇修了後の研修・研鑽について、OJT 等のシステムを紹介し、介護職としてどのようなキャリアが選択できるのかを紹介する	(10)－②

※１　実施計画欄に、申請者が実施する研修内容を記載すること。

※２　実習を実施するにあたっては、本要綱「14　実習」の内容に留意すること。